

白石さんをお招きした勉強会 (2007年11月26日) のまとめ

2007年11月26日に OurPlanet-TV の白石さんをお招きして、勉強会を開催しました。13時から18時まで、みっちり講習会を行い、その後、場所を移して、22時頃まで懇親会を行いました。講習会は5時間という長丁場でしたが、学ぶことが多くあっという間でした。また、懇親会ではざっくばらんに語り合い、盛り上がりました。

講習会では、市制70周年の式典向けに制作した映像のアドバイスを頂くとともに、年度末に制作する映像について、方向性を導き出して頂きました。その他、撮影に関する技術的な指導も受けました。たいへん勉強になりました。下記にその主な内容を記載します。

市制70周年の式典向けに制作した映像のアドバイス内容

- 町の個性が伝わらない。
- 暮らしている人の生き生きとした表情が伝わらない。
- ストーリー性がない。
- 市民・大学が作っている意味が薄い。

板書で書かれた以外に、要素が多いという指摘もされました。

年度末の2008年3月にお披露目する映像について

【至った経緯は3枚目以降に】

テーマ：南吉の足跡を継ぐ人々を通して半田の町の良さ、やさしさを描く

タイトル：**宿題として皆さんでアイデア出し**

ターゲット：市外の人がみてもわかるように

構成要素

- 彼岸花のエピソード (視点：つなぐ)
- 南吉ゆかりの場所 (視点：歴史)
- 町にキツネがいっぱい！！ (視点：地域)
- 小学校(母校)の授業 (視点：未来へ)

短くて、耳で聞いて印象的で、何となくわかるけど、期待感をもたせるもの

ごんぎつねのモチーフとなった川べりに咲く花を育てているのは誰！、なぜ！、インタビュー、活動、きっかけ、実際の花など

語り継がれる

途中で朗読が入ってもいいし、小学生の作文で終わるのもいい。

クロネコヤマトのキャラクターが半田では、キツネという話から“町にキツネがいっぱい”という流れに

白石さんからシナリオは、一人ではたいへんなので、上記の半田市紹介編とドキュメンタリー編は分けた方がいいですよというアドバイスを頂きました。また、鈴木さんは、ドキュメンタリーの方がより生きてくるのではというアドバイスを頂きました。

勉強会参加者間で検討したところ、南吉ということで榊原さんにお問い合わせきたらという声が挙がりました。
※12月7日に全体会合を開いて、榊原さんを交えて改めてお願いするとともに、全体の段取りも話し合います。

※3月1日、2日の駅前フェスティバルでは、上記の半田市紹介編を完成させてお披露目をして、ドキュメンタリー編は駅前フェスティバルの映像も含めて、3月末までに完成させることを想定

年度末の 2008 年 3 月にお披露目する映像おける白石さんのアドバイスの補足

- 1 本あたり 10 分くらいだろう。南吉で 8 分くらいだといいいものができるだろう。
- 前後の紹介で、古い映像と新しい映像の両方を使ってもいいだろう。
 - 日本の中の半田はここで、南吉が生まれ育ったのはこういうまちです。というような映像を 2 分半から 3 分くらいだろう。
- 知らないことは、いろいろな人に聞く。2 人で 1 チームくらいで、アポをとり取材していくといい。分担して参加メンバーが全員経験できるといい。
 - 高齢の方など、今でないとしゃべれない人など
- 取材したインタビューの中で、どこを伝えるのかが一番重要な部分
 - その人にしか言えないその人の言葉を入れていく。
 - ✧ その人しか聞けない話を引き出していくが、最初は周辺から自分の身分や思いを話して、相手をじわりじわり追い詰めていく。他の人には話してないことが聞けたら勝った。
 - ナレーションはその人の言葉でなくてもかまわないもの
- 南吉関連で、三脚を使ってないところは、撮りなおした方がいい。パーンが多い。パーンが 3 回続いているものもある。（※パーンとは、カメラを左右・水平方向に振る撮影）
 - 止めてきっちりとして、説明できる映像を三脚を使ってとるのがいい。
 - パーンをしたのなら、ラストカットがどういうものが撮れているのかが重要
 - ✧ 動いているものは点と点が動いているだけ、スライドショーの写真の一番いい場所を使うような感じで
- ロングのもののディテールがない。全体はあるが細かい部分が撮れてない部分もある。もっと見たくなるような中身、寄れるものはアップして一つのもので 3 つくらい撮る。
- 人とか動物とか動いているものを撮る。動いている瞬間、現場の音とともに。
 - 動きのタイミングは、何かを飲んでいるなら、飲んでいる瞬間を追う。カップを置くまで、その人の動きが終わるまで撮る。外付けマイクできちんと音もとる。
- メイン以外のものも撮っていく。調味料となる。いろいろなものを撮って集めておいて、それを使うことで全体がきゅっと締まる。
 - 撮影開始は朝だったけど、撮影の終了は夜になった場合など時間経過を撮っておく。全体の会議風景で、会議後の参加者の声、現場での撮影後の声、撮影時の自転車の音など半田の持つ空気感なども撮り貯めていく。
- カメラの使い方は、気にせずに。建物は三脚を使う。なるべく写真を撮るように撮影
- 撮影は、このような場面ならこの場所から撮るのがふつうだろうという定石はあるが、編集は、これをするといいいというのは言いにくい。あらゆるパターンがある。早めに編集を終えて、少し時間をおいて見ることを勧めます。ギリギリに仕上げると視野が狭くなる。
- 音楽の担当があってもいいだろう。

制作する映像で白石さんのアドバイスで挙げたもの

下記の3つの視点の映像づくりのアドバイス（ドキュメンタリー編を除く）を白石さんからいただきました。

今回、話し合っていく中で、山車まつりは、終わってしまっており、今から後追い取材・撮影も難しいのではないかという意見があり、イメージがわかりやすいという観点で、南吉が挙がり、いろいろと議論を重ねて、全国的な知名度もあり、知っている人も多いという総合的な流れから南吉となった。

今回のプロジェクトは来年度まで継続が可能であり、南吉以外は、来年度に制作していくこともできる。来年度も継続して行っていくかどうかの判断は、参加メンバーの意向を最優先する。

南吉を軸にして映像イメージ

- まちのあちこちにきつねがいる。（クロネコヤマトのきつねはじめ）
- 彼岸花をはじめた人がみんなをつないでいる。
- 小学校でも子どもたちが南吉の童話を取り上げている。
- やさしいものがたり、それを協働でやっている。
- 心を伝えているまち。

山車まつりを軸にして映像イメージ

- 証言をもとに、山車まつりの歴史を紐解く。
- これからの山車まつりの文化を広げていく若い人
- 伝統
- 継承だけでなく発展
- 山車まつりを始めた人

現在、山車まつりの撮影で人一倍がんばった学生の平岡君が山車まつりの映像を学内コンテストに作品を出す流れとなっている。

（まち並みとして）協働を軸にして映像イメージ

- まち並みとして、赤レンガ建物を取り上げて、赤レンガ建物を守り、まちづくりに取り組んでいる市民の方々（オサダさん）による協働
- まち並み関連で、蔵のまちなども同様に、まちづくりに取り組んでいる市民の方々による協働